

住所: 台北市慶城街28號 通泰商業大樓
TEL: 02-2713-8000 FAX: 02-2713-0705
HP: <http://www.koryu.or.jp/nihongo> (日本語センター)
E-mail: nihongo@mail.japan-taipei.org.tw
発行: 財団法人交流協会日本語センター
編集: 堀越和男・余啓夫 編印: 加減印刷有限公司

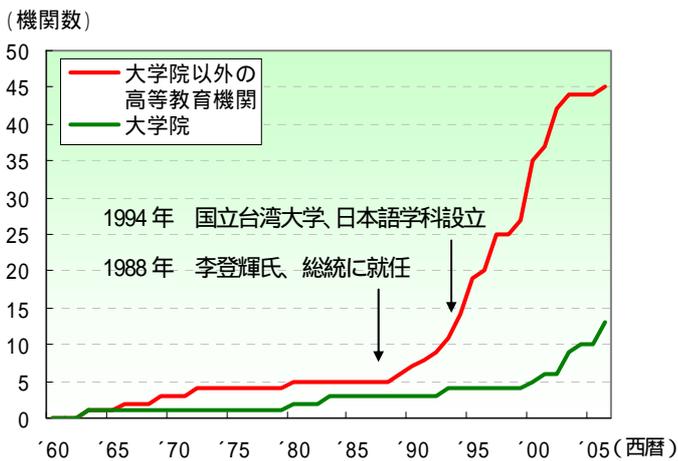
日本語関連学科を有する高等教育機関

2003年の国際交流基金『海外の日本語教育の現状』によると、台湾の日本語教育の特徴として、高等教育機関で学ぶ学習者の割合が他のアジア諸国と比較し高いことが報告されている。そこで今回は高等教育における日本語関連学科の歴史と特徴について紹介し、そのリストを掲載する。

歴史

近年、台湾の高等教育機関における日本語教育は、図1の機関数の増加にも見られるように急速に発展しつつある。1963年、台湾では戦後初めて現在の中国文化大学に日本語学科(当時は東方語文学系日文組と称した)が設置され、その後10年間に、淡江大学、輔仁大学、東呉大学にも設置された。1972年の国交断絶の一方で、日台間の経済文化交流は増え続け、その後、日本語の人材の必要性から1980年に当時専科学校だった国立台中技術学院の応用外語科に日文組が設置されたが、大学への設置は認められなかった。

そのような状況は、1987年に38年間続いた戒厳令が解かれ、1988年に台湾出身の李登輝氏が総統に就任すると一変した。1989年の国立政治大学を皮切りに、最高学府である国立台湾大学に日本語学科が設置されると、堰を切ったかのようにその波は台湾全土に広がった。現在その数は、43校44機関に上る。



民国95学年度に日本語の大学院が開設される東海大学

- 路思義教堂 -

特徴

台湾の日本語関連の学科は、学問として日本語・日本文学を学ぶことを目的とする学科と、「応用」の文字を冠し実用的な日本語能力の習得を目的とする学科の二つに大きく分けられる。近年台湾の社会では様々な場面、目的に応じた日本語人材が必要とされており、その要請に応じここ数十年設立された学科のほとんどは「応用(日本語学科)」である。国立高雄餐旅学院でも、来学年度設立が予定されており、ホテルなど観光産業分野における日本語人材の養成に特化している。

また、高等教育機関¹⁾には、総合大学以外に、いわゆる四技(四年制単科大学)、二技(二年制単科大学:高専卒業後入学)、五専(高専)、二専(短期大学)等、様々な形態が存在している。高学歴社会を背景に多くの専科学校が学院(単科大学)に昇格するのに伴い、日本語関連学科でも五専と二技は廃止され、四技に移行する傾向にある。そして、学部レベルでは、既に廃止、あるいは廃止が予定されている機関もあり、日本語関連学科が飽和状態である感は否めないが、大学院レベルでは民国95学年度²⁾に3校が開設されるなど、台湾の日本語教育はさらに発展し、新たな局面に入ったと言えよう。

文責:(財)交流協会日本語専門家 堀越和男

1) 台湾の学制については台北駐日経済文化代表處ホームページ(<http://www.roc-taiwan.or.jp/edu/edu2-1.html>)を参照。
2) 2006年8月~2007年7月

表 日本語関連学科を有する高等教育機関リスト（設立年度順）

	名称及び所属			設立年度	日間部						
	国私別	大学名	系(学科)・組(コース)		五専	二専	二技	四技	学士	碩士	博士
1	私立	中国文化大学	日本語文学系	1963年					○	○	
2	私立	淡江大学	日本語文学系	1966年					○	△	
			(日本研究所)	1983年						○	
			応用日本語系	1997年			●				
3	私立	輔仁大学	日本語文学系	1969年					○	○	
4	私立	東呉大学	日本語文学系	1972年					○	○	○
5	国立	台中技術学院	応用日本語系	1980年			○	○			
6	国立	政治大学	日本語文学系	1989年					○	○	
7	私立	文藻外語学院	日本語文系	1990年	○		○	○			
8	私立	銘伝大学	応用日本語学系	1990年					○	○	
9	私立	東海大学	日本語文学系	1992年					○	△	
10	私立	東方技術学院	応用外語科日文組	1993年	○						
11	私立	和春技術学院	応用日本語系	1993年	●			○			
12	国立	台湾大学	日本語文学系	1994年					○	○	
13	私立	南台科技大学	応用日本語系	1994年				○		○	
14	私立	南榮技術学院	応用日本語系	1994年	●			○			
15	私立	環球技術学院	応用外語系日文組	1995年	●	●		○			
16	私立	景文技術学院	応用日本語系	1995年				○			
17	私立	高苑科技大学	応用外語系	1995年				○			
18	私立	中州技術学院	応用外語系日文組	1995年	●						
19	私立	親民技術学院	応用外語科日文組	1996年	○	○					
20	国立	高雄第一科技大学	応用日本語系	1997年			○	○		○	
21	私立	大仁科技大学	応用外語系日文組	1997年	○		○	○			
22	私立	真理大学	応用日本語学系	1997年					○		
23	私立	元智大学	応用外語学系	1997年					○		
24	私立	吳鳳技術学院	応用外語系日文組	1998年		○		○			
25	私立	静宜大学	日本語文学系	1999年					○		
26	私立	育達商業技術学院	応用日本語系	1999年				○			
27	国立	屏東商業技術学院	応用日本語系	2000年				○			
28	私立	修平技術学院	応用日本語系	2000年				○			
29	私立	立德管理学院	応用日本語学系	2000年			○	△	○		
30	私立	致遠管理学院	応用日本語学系	2000年					○		
31	私立	大葉大学	応用日本語学系	2000年					○	△	
32	私立	興国管理学院	応用日本語学系	2000年					○		
33	私立	慈濟大学	東方語文学系日文組	2001年					○		
34	私立	明道管理学院	応用日本語学系	2001年					○		
35	私立	樹人医護管理専科学校	応用外語科日文組	2001年	○						
36	私立	開南管理学院	応用日本語学系	2002年					○		
37	私立	長榮大学	応用日本語学系	2002年					○	○	
38	私立	世新大学	日本語文学系	2002年					○		
39	私立	義守大学	応用日本語学系	2002年					○		
40	私立	慈恵医護管理専科学校	応用外語科日文組	2002年	○	○					
41	私立	中華大学	外国語文学系日文組	2003年					○		
42	私立	中山医学大学	応用外国語学系日文組	2003年					○		
43	私立	致理技術学院	応用日本語系	2003年				○			
44	国立	高雄餐旅学院	応用外語系日文組	2006年				△			

「○」はその課程が既に設置されていることを表し、「●」は民国95学年度に開設されることを表す。

本表の詳細は(財)交流協会ホームページをご参照ください。

	夜間部							連絡先		
	五専	二専	二技	四技	学士	碩士	博士	〒	住所	代表
1								111	台北市陽明山華岡路 55 號大仁館 2 樓	陳鵬仁
2					○			251	台北縣淡水鎮英專路 151 號	彭春陽 任耀廷
3			○		○			106	台北市金華街 199 巷 5 號 603 室	陳山龍
4					○	○		242	台北縣新莊市中正路 510 號	黃翠娥
5								111	台北市士林區臨溪路 70 號	朱廣興
6								404	台中市北區三民路三段 129 號	邱學瑾
7					○			116	台北市文山區指南路二段 64 號	于乃明
8			○					807	高雄市三民區民族一路 900 號	葉秀治
9								333	桃園縣龜山鄉大同村德明路 5 號	林長河
10		○		○				407	台中市中港路三段 181 號 東海大學 850 信箱	黃美慧
11								829	高雄縣湖內鄉東方路 110 號	孔長江
12								831	高雄縣大寮鄉信義路 40 號	蘇富玲
13				○				106	台北市大安區羅斯福路四段一號	趙順文
14		○						710	台南縣永康市南台街一號	陳連浚
15		○	○					737	台南縣鹽水鎮朝琴路 178 號	林淑鈴
16								640	雲林縣斗六市嘉東里鎮南路 1221 號	朱明江
17				○				231	台北縣新店市安忠路 99 號	楊忠意
18								821	高雄縣路竹鄉中山路 1821 號	陳滋松
19		○						510	彰化縣員林鎮山腳路三段 2 巷 6 號	陳桂芬
20								351	苗栗縣頭份鎮珊瑚湖學府路 110 號	王銘鋒
21			○					811	高雄市楠梓區卓越路 2 號	葉淑華
22			○		△			907	屏東縣鹽埔鄉新二村維新路 20 號	陳永煌
23			○					251	台北縣淡水鎮真理街 32 號	曾德芳
24		○						320	桃園縣中壢市內壢遠東路 135 號	陳淑芬
25								621	嘉義縣民雄鄉建國路二段 117 號	吳振榮
26				○				433	台中縣沙鹿鎮中棲路 200 號	曾煥棋
27								361	苗栗縣造橋鄉談文村學府路 168 號	黃其正
28			○					900	屏東市民生東路 51 號	劉秋燕
29			○		○			412	台中縣大里市工業路 11 號	王福順
30								709	台南市安南區安中路五段 188 號	鄭印君
31								721	台南縣麻豆鎮南勢里 87 之 1 號	楊山明
32								515	彰化縣大村鄉山腳路 112 號	黃迎春
33								709	台南市安南區育英街 89 號	施文華
34			●		●			970	花蓮市中央路三段 701 號	林聖傑
35								523	彰化縣埤頭鄉文化路 369 號	魏世萍
36								829	高雄縣路竹鄉環球路 452 號	鄭雪玉
37								338	桃園縣蘆竹鄉開南路一號	余金龍
38					○			711	台南縣歸仁鄉長榮路一段 396 號	謝逸朗
39					○			116	台北市文山區木柵路一段 17 巷 1 號	陳炳崑
40					○			840	高雄縣大樹鄉學城路一段 1 號	黃幸素
41								926	屏東縣南州鄉三民路 367 號	張德銘
42								300	新竹市東香里六鄰五福路二段 707 號	陳雅書
43								402	台中市南區大慶街二段 100 號	黃文忠
44								220	台北縣板橋市文化路一段 313 號	廖永光
								812	高雄市小港區松和路一號	

「△」は近年中に廃止が予定されていることを表す。

日本語関係の新設大学院

民国 95 学年度から、淡江大学・東海大学・大葉大学の 3 校が日本語関係の修士コースを新設する。淡江大学外国語文学院日本語文学系修士コースでは、日本文学・日本語学（日本語教育も含む）・日本文化を専門領域として、それぞれの専門教育のほか、日本語能力の指導と、日本統治時代の資料の講読研究をカリキュラムに加える点を特色とする。東海大学文学院日本語文学系修士コースは、多元文化交流実務の専門家を養成することを目的とする。学生は多言語接触領域・表象文化領域・公共性領域のいずれかを専攻するが、このほかに社会的実践プロジェクトに参加し、学内外の専門家との交流を通して実践的知識を身につけるカリキュラムとなっている。大葉大学外国語学院応用外国語研究所（大学院）では従来の英語研究・英語教育研究コースに加え、日本語研究コースを開設する。日本語研究を中心として言語対照研究、さらに言語の背景である文化・文学に関する教養を身につけさせ、国際社会に即応できる「応用日本語人材」の育成を目指す。来学年度開設の 3 校を含めると 13 校の大学が日本語関係学科の大学院を設置することになり、今後は大学院においても特色あるカリキュラムを打ち出すことが必要となろう。

高校の日本語履修者大幅増

1983 年、普通高校で初めてカリキュラムに第二外国語が選択科目として導入され、現在日本語・フランス語・ドイツ語・スペイン語の主に 4 つの言語の教育が行われている。教育部中教司の調べ³⁾によると、民国 94 学年度第 1 学期（2005 年 9 月～1 月）には全国 139 校 731 のクラスで第二外国語教育が行われ、延べ 24,539 人の学生が学んでいるとのことである。これは「推動高級中学第二外国語教育第五年計画」が実施された民国 88 学年度（1999 年）の学習者数の 2 倍を上回る数であり、近年高校における第二外国語教育の成長が窺われる。

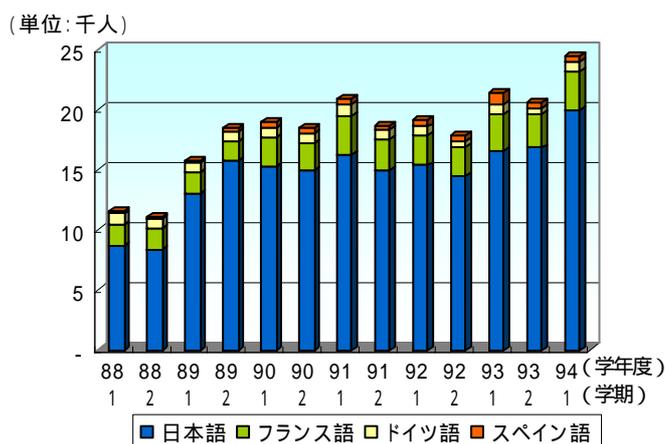


図2 高校における第2外国語履修者数の推移

その中で最も大きく伸びたのが日本語で、民国 88 学年度第 1 学期に 8,646 人だったものが、民国 94 学年度第 1 学期には 19,877 人と、ここ 6 年で 1 万人以上履修者が増加した。図 2 を見ても分かるとおり、日本語は圧倒的な人気で、現在第二外国語履修者の 8 割以上が選択し学んでいる。

昨年 1 月に施行された「推動高級中学第二外国語教育第二期五年計画」では、第二外国語教育の質・量の向上及び環境の改善を行い、高校生に対する国際文化教育を根付かせることを目標に掲げており、教育部は各種第二外国語クラスの開講を奨励、補助金を出すなどとしている。今学年度は韓国語など新たな外国語を取り入れる高校もあり、今後更に第二外国語教育の発展が予想される。

台湾の日本語能力試験応募者数(人口比)世界一

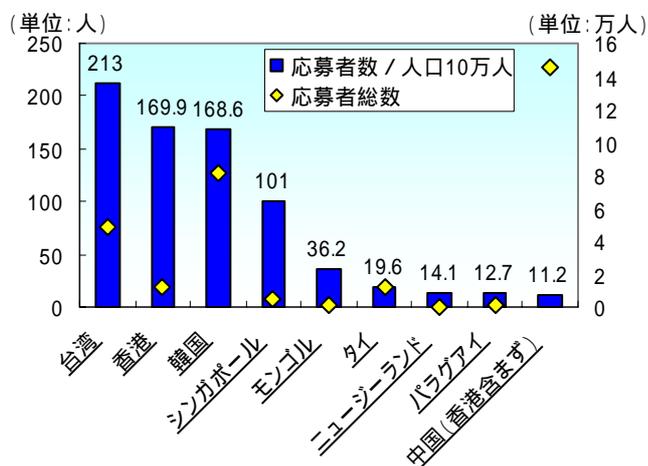


図3 人口 10 万人当たりの応募者数

日本語能力試験は、1984 年に初めて実施され、2005 年で 22 回目となる。国際交流基金によると、日本を含む世界の応募者の総数は、第 1 回目開催時には 8 千人ほどであったが、その後常に前年を上回り、2005 年 12 月実施分については 46 の国と地域、約 42 万人に上る⁴⁾。その内、台湾での応募者数は約 4 万 8 千人で、全世界の約 12% を占める。

現在、台湾の日本語学習者数は、海外において、韓国、中国、オーストラリア、米国に次いで第 5 位に位置していると言われる。日本語能力試験の応募者数は日本語の普及状況を示す一つの指標となると考えられるが、図 3 を見ると、台湾は中国、韓国に次いで第 3 位、人口比に至っては、10 万人当たり 213 人と世界で最も多い。なお、増え続ける台湾の応募者に対応するため、交流協会では台北と高雄に加え、次回台中にも試験会場を設置することを検討している。

3) <http://epaper.edu.tw/news/941208/941208c.htm?open> 参照

4) <http://momo.jp.go.jp/jpt/j/result.html> 参照

「評価の実践と活用」

伊東祐郎（東京外国語大学教授）

日本語教育においては、実に多くのテストが存在します。日本語能力試験や日本留学試験などは、多くの人によく知られているテストです。一方、学校や大学などの教育機関で教師自らが作成するテストも数多く存在します。プレースメント・テスト、中間試験、修了試験などがこれにあたります。ここでは、前者を大規模テスト、後者を小規模テストと呼ぶことにしましょう。日本語テストをこのように二つに区別する意味は、試験の目的が異なるために、問題項目の作成や実施の方法、また実施後の得点の扱いや解釈などが異なる点にあります。

大規模テストの受験者は、日本語能力試験を例にとってみると、毎年、世界で30万人以上が受験しています。学習者は世界のいたるところで日本語を学んでいる人たちです。学習目的も異なれば、使用している教科書も様々です。また、学習期間や学習方法も多様であることが推測できます。そのために、出題内容は、特定の日本語コースの学習目標やそこで使用されている教科書とは関係していません。また、ある特定の受験者集団の日本語能力を参考にしているわけでもありません。受験者が一般生活の様々な場面において、ある課題を達成するために十分な日本語能力があるかどうかを測定するために開発されているものです。大規模テストは、運用力として想定されている日本語を受験者に使わせ、その能力を測定することを目的にしているのです。熟達度テスト、英語ではプロフィシエンシー（proficiency）テストと呼ばれています。

小規模テストは、日本語コースの教育目標に対する個々の学習者や学習者集団の進歩の度合いを知るために作成されるものです。出題内容は、コースのシラバス（教育内容一覧）や使用された教科書、関連教材を反映したものになります。日本語を教えている教師が問題項目を作成することが多いので、教師にとっては身近で馴染み深いテストと言えるでしょう。テスト結果から、教師、学習者共に学習状況を把握し、授業の進め方、学習方法の見直しを行うことも可能になります。

日本語テストで測定対象となる領域は、「文法力」「文字力」「聴解力」「読解力」「作文力」「会話力」などが代表的なものです。中でも、「作文力」「会話力」を測定する試験は、実際に日本語を運用させることからパフォーマンス・テストと呼ぶことがあります。しかし、実施や評価に時間が

かかること、採点における客観性、すなわち信頼性の保証が難しいこと、また、内容的妥当性に疑問が持たれやすいことなどが課題となっています。作文に関して言えば、評価の研究が不十分であること、会話については、会話指導、コミュニケーション

能力に関する指導法の研究が不十分なため、評価に関しても十分な信頼性が得られにくいことも指摘され、具体的にどのような実施してよいかかわからない教師も少なくありません。

最近では、パフォーマンスを基本とする表現力の測定の必要性が高まっています。表現力を採点・評価する方法としては、大きく分けて以下のように2つの方法が取られています。

分析的評価（Analytic rating）：

得られた文章、あるいは発話を、文法・語彙・構文・表記・発音などの要素別に分けて採点する方法です。能力を構成する要素を細分化して、それぞれの上達度を定義づけ、加重配点された点数を合算して数値化するものです。能力を構成する要素やそれぞれの評価対象領域での採点基準の設定は、表現内容の多様さを考慮して、採点基準を詳細に設定したものから簡潔なものまで、様々です。

包括的評価（Holistic/Global rating）：

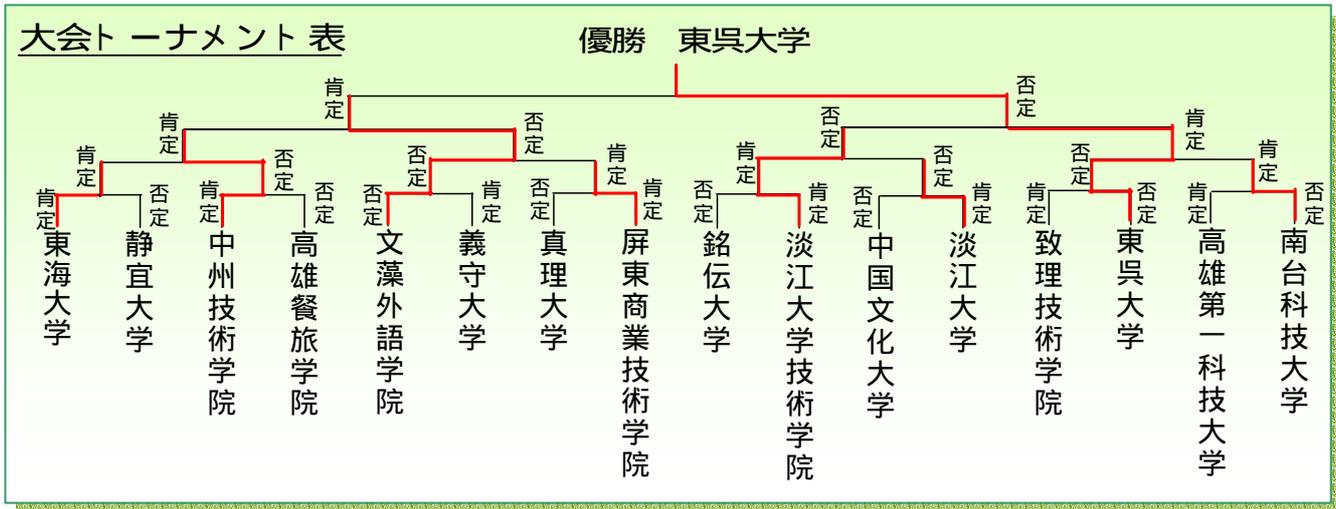
得られた文章、あるいは発話を、要素別には分けずに、全体を印象で評価する方法です。評価は、総合的に評価したものを能力レベル別に出します。包括的評価は、コミュニケーションの達成や課題遂行能力に対しての直感・印象によって総合的にレベルを判定するものです。

テスト得点の性質を示すものとして信頼性があります。つまり、得点の安定性、一貫性を表すものです。パフォーマンス・テストである作文力や会話力のテストにおいては、複数の評定者による採点結果の一致度を算出し、評定者間信頼性を確保することが大切になります。

日本語テストの形式や内容は、その時々々の社会や教育目標における言語能力観と大きく関係しています。言語能力観は、教授法に影響を与え、後にテスト方法に影響を与えることとなります。紙筆テストからパフォーマンス・テストへとテストのあり方も拡大発展しています。テスト作りと評価における一貫性・透明性が、今後一層求められることになるでしょう。日本語教師の評価リテラシーを高めていきたいものです。

【主な参考文献】

『言語テストング概論』マクナマラ, T., 伊東祐郎他監訳 (2004) スリーエーネットワーク



主催：(財)交流協会・東呉大学 指導単位：教育部 協賛：日本亜細亜航空・郵船通運股份有限公司・國立教育廣播電臺・傑士達文化事業有限公司

第2回 全国大学生日本語ディベート大会

2006年3月4日、東呉大学（台北市士林區）において全国大学生日本語ディベート大会が開催された。参加校は初出場6校を含む16校。今年度の大会ルールと、論題「台湾は炭素税を導入すべきである」は昨年9月公表され、12月にはトーナメントの組み合わせ抽選会が行われた。また2月には各地で練習試合が行われるなど、各校は準備に余念がなかった。大会結果は、以下の通り。

- 優勝 東呉大学 日本語文学系
- 準優勝 文藻外語学院 日本語文系
- 第三位 中州技術学院 応用日語系
- 第三位 淡江大学技術学院 応用日語系
- 最優秀ディベーター賞 鄧玉潔さん(淡江大学技術学院)

全15試合のうち肯定側の勝利が7試合、否定側の勝利が8試合。肯定・否定の立場は15分前の抽選で決まるが、各校は双方の立場から事前に入念な準備をしておき、試合は白熱した戦いが続いた。

遠方からの出場校や初出場校が健闘したことも、今大会の特徴として挙げられる。大会前の練習試合も含め、ディベート大会に出場することが日本語専攻の学生間の交流促進につ



決勝戦の様（文藻外語学院 対 東呉大学）

ながれば、これも大会成果の一つに数えられるであろう。

なお、審査員代表による講評では、全体的に昨年の大会より日本語力や技術の向上が見られたが、相手の主張に対する的確な対応ができたか否かが勝敗のポイントとなったこと、スピーチ中の口頭によるアドバイスなど違反行為が数件見られたこと、証拠資料についての意見の応酬が少なかったことなどが指摘され、今後に向けての各校の課題となった。

また、日本語によるコミュニケーション能力を評価する最優秀ディベーター賞は、1回戦で肯定側立論を担当した淡江大学技術学院の鄧玉潔さんが受賞した。

ディベート大会に向けた各校の取り組みにおいては、ディベーターとしての出場者だけではなく、立論や反駁のための調査、作戦への関与等を通して、多くの学生が関わっていたと考えられる。また、運営スタッフとして参加した東呉大学学生の活躍も大会進行には欠かせない存在であった。

2006年全国応用日語学術研討会

2月24日、国立屏東商業技術学院を会場に、同校と台湾応用日語学会の共催による「2006年全国応用日語学術研討会『応用日語教育的実践與教学品質之提升』」が開催された。まず山崎恵氏（姫路獨協大学外国語学部日本語学科教授）による「中国語母語話者の作文に見られる誤用」、遠藤藍子氏（東京国際大学商学部・国際関係学部講師）による「できる学習者にさせる工夫」と題する講演が行われ、その後「日本文学・日本語学」「日本語教育」「日本研究」を中心とする3つの分科会で、計17組の研究発表が行われた。遠方からの参加者も多く、活発な質疑応答が行われ、南部の日本語教育関係者間の懇親にも貢献した大会となった。次の同学会の研討会は6月に義守大学との共催で予定されている。

第7回 日本語教育実践講座

1月7日、講師に滝沢直宏氏（名古屋大学院大学教授）を迎え、第7回日本語教育実践講座（当協会高雄事務所主催）を文藻外語学院にて開催した。「日本語研究・日本語教育のためのコーパスの利用」をテーマとした今回の講演では、「コーパス（電



（滝沢直宏氏）

子化された大規模な言語資料）」を利用し、コンピューターを使って「コロケーション（語と語の自然な結びつき方）」を抽出する方法と、それを利用することによりある表現が実際にどのように使われているのか知ること、確かめられることなどが紹介された。日本語研究においてもコンピューターによって膨大な言語資料から高速且つ正確に情報を処理しそれを利用することの有用性、その特性を活かすことによって日本語について様々な情報を抽出できる可能性を示すとともに、その限界や利用する際の注意点にも触れられた。また、受講者の関心も高く、質疑応答では講師との活発な意見交換が行われた。

2005年度 日本語教育冬期研修会

2月15日から20日にかけて、台北（交流協会日本語センター）・台中（東海大学）・高雄（文藻外語学院）において講義とワークショップの研修会を開催した。今回は伊東祐郎氏（東京外国語大学留学生日本語教育センター教授）と島田めぐみ氏（東京学芸大学留



（伊東祐郎氏）

学生センター助教）を講師に迎え、「評価の実践と活用」をテーマに、テストングの基礎理論や、項目分析などの統計処理の結果をどのように活用するかなどを含む幅広い内容の研修会となった。前半では、到達度テストと熟達度テストの二つの視点から、「読む・書く・聴く・話す」の4技能それぞれについて能力を記述した「Can-do-statements」に応じたテスト作成について考えた。また、後半のワークショップでは、



（島田めぐみ氏）

テストの評価方法に関して、特に表現力テストを中心に、作文や口頭表現の評価を実際に体験しながら、評定者同士で一致度を見るなど、参加者が評価の重要性を再認識できる研修会となった。

2005年度 第5回 特別講演会

1月14日、岡本さえ氏（東京大学名誉教授）を講師に迎え、2005年度第5回特別講演会を開催した。今回は「東西文化交流から見た江戸時代の東アジア世界」と題し、17・18世紀の東アジアにおいて、西洋と東洋がどのようにお互いの文化を取り入



（岡本さえ氏）

れたのか、具体的な史料を示しながら解説された。いわゆる鎖国政策をとっていた日本にも、西洋や中華の文物がかなり入ってきており、それらが支配層だけではなく市民に広く受け入れられていたことや、当時東アジアに来ていた西洋人が、現地の様子をかなり詳しく母国に伝えていたことなどが紹介された。和服・茶道・歌舞伎など日本固有の文化とされるものが確立する江戸時代に、外国との文化交流が盛んに行われていたことは、あまり知られていないことであり、日本文化史を学ぶ上で有意義な内容であった。最後に、岡本氏は台湾に文化交流史に関する資料が豊富に集められていると述べ、台湾における比較文化研究の可能性を強調した。

第32回 中等教育機関日本語教師研修会

2月25日、当協会台北事務所文化ホールにおいて、第32回中等教育機関日本語教師研修会を開催した。今回は邱瑞生氏（東方高級工商職業学校教師）、劉百齡氏（銘傳大学応用日語学系助理教授）を講師に、「日本事情教育とコンピュー



（邱瑞生氏）

ター・リテラシー — 日本観光文化の授業を題材として」というテーマで研修が行われた。まず、観光文化の授業を例に、絵や写真、ビデオ等が「PowerPoint」と「FrontPage」によってどのように印象的な教材になるか、また、実際にそれを授業に活用し、いかに学習者の興味を惹く楽しい授業作りができるかが紹介された。次に、「PowerPoint」と「FrontPage」



（劉百齡氏）

を使った教材作成の方法と効果的な使用方法について、実際に参加者もコンピューターを操作しながら研修が進められた。また、練習としてプレゼンテーション用の教材を作るなど、参加者にとって実践的且つ実用的な研修会となった。

2006 年全国大学校院日語演講比賽

日時：3月25日(土) 9:00～
 会場：国立台湾師範大学教育大樓 2F
 問合わせ：台湾日本研究学会連絡処
 (02-2704-2962 劉修慈秘書)

2005 年度 第 6 回 特別講演会

テーマ：「〈応用〉日語系における通訳教育の現状と展望」
 講師：楊承淑氏(輔仁大学翻訳学研究所教授)
 日時：3月25日(土) 15:00～17:00
 会場：交流協会台北事務所 3F 日本語センター

東吳大学外国語文學院 2006 年校際學術研討會

テーマ：「外語文教育：挑戦與契機」
 日時：3月25日(土) 9:30～17:00
 会場：東吳大学外双溪國際會議庁
 問合わせ：東吳大学英文系
 (02-2881-9471 内 6485 王筠蕙助教)
 (<http://www.scu.edu.tw/foreign/ynews/NewsLetters/17/index.htm>)

2006 「応用語言学国際研討会」

日時：4月1日(土) 8:30～16:50/2日(日) 9:00～17:20
 問合わせ：国立嘉義大学 外国語学系
 (05-226-3411 内 2151)
 (http://211.22.252.67/ncyu_en/studyplan_2006_01.php)

第 8 回 日本語教育実践講座(高雄)

第 33 回 中等教育機関日本語教師研修会(台北)

テーマ：「授業設計に役立つ教材分析の手法 ―構造図作成と教室活動分析―」
 講師：柴原智代氏(国際交流基金日本語国際センター講師)
 日時：4月15日(土) 13:00～16:00
 会場：文藻外語学院(高雄市民族路 900 号)
 日時：4月16日(日) 14:00～17:00
 会場：交流協会台北事務所 3F 日本語センター

静宜大学 2006 年『日本學與台灣學』國際學術研討會

テーマ：「日本學與台灣學」
 日程：5月20日(土)
 会場：静宜大学國際會議庁
 問合わせ：静宜大学日本語文学系
 (04-2632-8001 内 12012 陳靜美助教)
 (<http://www.pu.edu.tw/~japan/>)

2006 応用外語国際研討会

テーマ：「跨文化溝通與外語應用」
 日程：6月2日(金)
 会場：国立高雄第一科技大学函資大樓 6F 國際會議庁
 問合わせ：国立高雄第一科技大学 応用德語系
 (07-601-1000 内 5201・5202)
 (<http://www.nkfust.edu.tw/~unit15/>)

2006 年応用日語學術研討会

テーマ：「日語的研究・教學・運用」
 日程：6月3日(土)
 会場：大葉大学 J107 國際會議庁
 問合わせ：大葉大学応用日語学系
 (04-851-1888 内 6071 張佳微助教)
 (<http://www.dyu.edu.tw/~dj5220/NEWS/paper.htm>)

2006 立德管理學院外語學群校際學術研討會

テーマ：「眾生眾聲：全球化與多元文化場域中的外語文教學」
 日程：6月9日(金)
 会場：立德管理學院
 問合わせ：立德管理學院応用日本語学系 (06-255-561)
 (<http://www.ed.leader.edu.tw/conference/conference%20page.htm>)

日本語文学会例会

日時：第 209 回例会 4月15日(土) }
 第 210 回例会 5月20日(土) } 10:00～12:00
 第 211 回例会 6月17日(土) }
 会場：台湾 YMCA 城中会所 (4・6月) 008/ (5月) 2F
 問合わせ：日本語文学会
 (http://www.geocities.jp/taiwan_nichigo/index.html)

全国語言学論文研討会

日程：7月12日(水)
 会場：輔仁大学語言学研究所
 問合わせ：輔仁大学語言学研究所
 (02-2905-2553 楊淑卿秘書)
 (<http://www.ling.fju.edu.tw/conferences2.htm>)

国立政治大学外語學院翻譯中心第二屆國際學術研討會

テーマ：「文化翻譯與外語教學」
 日程：7月15日(土)
 問合わせ：国立政治大学外語學院翻譯中心
 (02-2939-3091 内 63678 吳昭英助理)
 (<http://trans.nccu.edu.tw/portal/DesktopDefault.aspx>)

お知らせ

- 「いろは」をご愛読くださいます、ありがとうございます。現在、年4回発行しておりますが、来年度より2回となり、次号は秋号となります。今後も台湾の日本語教育に関する情報を充実させ発信してまいります。
- 「いろは 21 号」の特集記事「日本語関係の高等教育機関における交換留学の実情」等に関し、一部修正があります。HP 版「いろは」をご確認ください。

『いろは』3月20日号 目次

- 1 4 台湾日本語教育情報源
- 5 日本語・日本語教育のキーワード
- 6 日本語教育ニュース
- 7 日本語センターの活動報告
- 8 台湾日本語教育関連情報